

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2025.12.No340

12月号

## 目次

第47回（一社）北海道建築士会 全道大会（中標津大会）を終えて	1
特集 第47回 全道大会 「中標津大会」	2
西から東から「釧路のまち」	6
Coffee Break	7
会誌「北海道建築士」の発行方法 変更について	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

## 第47回（一社）北海道建築士会全道大会（中標津大会）を終えて

第47回一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長  
中標津支部支部長 山 岸 英 一



（一社）北海道建築士会第47回全道大会（中標津大会）に全道各支部の会員を始め、青森県、宮城県、大阪府の建築士会や日本建築士会連合会の方々並びに多くのご来賓のご臨席を賜り、総勢252名の参加を頂き、盛大に開催できたことに、心から厚く感謝とお礼を申し上げます。

これも、本間会長をはじめ本部役員の皆さまや道東ブロック各支部の皆さまのご支援やご協力の賜物であり、すごろく大意見交換会のテーブルサポーターでご協力いただいた道士会各委員会の皆さまにも感謝とお礼を申し上げます。

大会テーマ「日いづる大地からのメッセージ」は、平成10年第24回全道大会の「建築士よ風を感じよう！丸い大地にそよぐ新しい風を～」に於いて全道大会を初めて町規模での開催や、屋外大懇親会など取り入れるチャレンジの大会であったことに思いを馳せて、今回の大会では、道士会のこれからの繋がる目的ある企画として、これまで経験のない「すごろく大意見交換会」を実施することとしました。当初、道士会の中からも「すごろく方式」を用い、設問に答えるだけで、回答や意見の取りまとめも行わないことで何が得られるのかと案じる意見もありましたが、中標津支部の強い思いから皆さんにご理解いただき開催にこぎ着けたことに改めてお礼申し上げます。

「すごろく大意見交換会」は、シンプルで分かりやすく参加者全員が、個々の設問に自らの思いや考え、共感を言葉にできること、そして今現在私たち道士会が抱える諸課題の解決策を一步でも進めるための方向性や糸口に、自らが気付くきっかけの場になればと企画したものです。

終了後に実施した意識調査の結果から見ると「すごろく方式の感想」は、大変満足とやや満足が約9割、「すごろく大意見交換会はこれからの士会活動について改めて考える場となりましたか」については、なったとある程度なつたで約9割とそれぞれ回答をいただいています。また、自由意見としては、

必ず回答する機会があるので良かった、すごろくの要素を組み入れる事で、楽しみながらテンポよく意見交換ができて良かった、継続して欲しい、いろいろな人や諸先輩方の経験談など気軽に聞けて有意義な時間になったなどの意見もありました。

総じて、世代を超えて会員同士が率直で活発な意見を交わす場となり、多くの共感できる意見や考えに気づき、それが将来の道士会を動かすきっかけに繋がることを期待しています。

また、合わせて実施した「全道大会に参加するメリット」についても、大変感じたとある程度感じたで約9割の回答があったことから、全道大会の今後の有り方を考えるきっかけにも繋がるものと思っています。

大会式典においては、多くのご来賓の皆さまには、心より厚くお礼申し上げます。また、長年に渡る建築士会活動において表彰されました先輩諸兄の皆さまには心より労いの言葉をお送りしたく存じます。

基調講演には、北海道大学名誉教授の角幸博氏をお迎えし、「遺すことは創ること～歴史的建造物の維持保全と課題」をテーマに講演いただき、現在抱えている諸問題など貴重なお話を拝聴することが出来ました。

懇親会は、地元出身シンガーソングライターのエナさんの歌声で華やかに始まり、日頃なかなか顔を合わせる事のない方々とも、ゆっくり交流する場を設けることができ、次年度開催地の札幌支部さんへバトンを渡すこともでき安堵しています。

最後になりますが、本大会開催に向けて企画から準備運営に2年間全力で力を注いでくれた中標津支部の仲間へ感謝とお礼申し上げます。そして、私たち支部に取っても会員の結束と活発化に繋がる大会となったことに加えて、地域に士会活動をPRするきっかけにもなったことを嬉しく思っています。この大会に集まり携わっていただいた皆さん、ありがとうございました。



大会会場入口



すごろく大意見交換会①



すごろく大意見交換会②



すごろく大意見交換会③



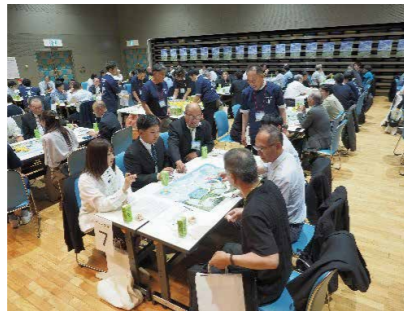
すごろく大意見交換会④



すごろく大意見交換会⑤



すごろく大意見交換会⑥



すごろく大意見交換会⑦



すごろく大意見交換会⑧



すごろく大意見交換会⑨



すごろく大意見交換会⑩



応急危険度判定・ミニ机上訓練ブース



活動パネル展示ブース



大会実行委員長挨拶（山岸中標津支部長）



大会長挨拶（本間会長）

PHOTO GALLERY



来賓祝辞（古谷連合会会長）



来賓祝辞（北海道知事代理 大野建築企画監）



表彰状授与の様子



基調講演の様子



表彰者記念撮影



基調講演（角 幸博様）



懇親会場の様子



大会実行委員長挨拶（山岸中標津支部長）



余興（エナさんによる歌唱）



すごろく大意見交換会（コマの表彰）



次期開催地PR（札幌支部）

第47回全道大会  
(中標津大会)

来年は、  
第48回全道大会  
(札幌大会)

# 日いつる大地で語らう



久保田 俊（中標津支部）

今大会では、これまで開催地テーマに即した分科会が開催されてきましたが、中標津大会では、昨年の日高大会で行われた「ひだカフェ」の試みと同様に初めての試みとなる「すごろく」の手法を取り入れた参加者全員での大意見交換会を行いました。

大意見交換会は、約130人で開催され、参加者が少人数のグループに分かれ、自らが順番にサイコロを振り、その出た目だけコマを進め、そこに書いてある設問に答えるといったシンプルなルールで展開します。



すごろくシート

設問は、これまで建築士会活動や仕事の場面での経験、思いや考え、そしてこれからの時代に向けて、自ら言葉にして答えていただき、この回答に対し議論や反論などから結論を出すことを目的とするものではなく、グループ内の参加の皆さんにも自問自答していただき、改めてどのような思いや考えがあるのかを気づいていただくことを目的としました。



すごろく大意見交換会の様子

初めての試みなためどうなるのか、そわそわしながら見守っていたのですが、始ると同時に会場が

騒がしく盛り上がり、それが熱気と変わり、会場のエアコンの設定を下げたのを覚えています。会場を歩き回ると、設問について話をしている方はもちろん、おやつを沢山食べている人や、なによりも沢山の笑い声を聞いたことが嬉しく思いました。

また、今回参加される方には「すごろく」で使用するコマをオリジナルで用意をしていただくをお願いをしていたのですが、そこはさすが建築士の皆さん、個性豊かなコマだらけ。その中でもデザインが優れていたコマは、懇親会で賞をつけ、表彰をしました。

やはり「すごろく」となると、ゲーム性が出てゴールすると嬉しいのか、万歳している人がいたり、ゴール時にはかなり各テーブル盛り上がりを見せていました。各テーブル1位でゴールした方には、たくさん飲んでいただきましょう、「牛乳券」！鹿笛の「ピー」の音で、2回戦行った「すごろく大意見交換会」は幕を閉じました。



すごろく大意見交換会の様子

大意見交換会終了後は、アンケート集計を行い本大会について、「すごろくの要素を組み入れることで楽しみながら意見交換ができた」、「諸先輩方の経験談など聞けて勉強になった」、「難儀な設問が多かった」など、様々な意見をいただくことができました。

大意見交換会に参加された皆様においては、ここでの気づきや多く共感できたことを今後の建築士会や仕事など、あらゆる面でこれから動かすきっかけとなることを期待したいと思います。

参加者並びにテーブルサポーターとしてお手伝いいただいた皆様に感謝させていただき、報告に代えさせていただきます。

今回は、本当にありがとうございました！！

## 基調講演

テーマ：遺すことは創ること  
～歴史的建造物の維持保全と課題～

情報委員会 副委員長

立花 智亜喜 (網走支部)



基調講演は「遺すことは創ること～歴史的建造物の維持保全と課題～」と題し、北海道大学名誉教授でNPO法人歴史的・地域資産研究機構代表理事などを務められている角幸博氏よりお話をいただきました。

角氏はまず「失われた近代建築」の事例として、旭川市庁舎や藤学園キノルド記念館など、道内で解体されてきた歴史的建造物を数多く紹介され、現状に警鐘を鳴らしました。

一方で、歴史的資産を未来に繋ぐための具体的な活動にも言及されました。特に、重要文化財の旧相馬邸が、その価値を守るために所有者変更を経て維持されている事例や、旧妹背牛町役場庁舎・議事堂が歴史的価値を再評価され郷土館として再生した事例を紹介し、維持・活用の成功例として述べられました。

また、道東の資産として、RC造展開初期の貴重な建築である伝成館（旧北海道農事試験場根室支場庁舎）や中標津町郷土館緑ヶ丘分館など、これらの保存のために地域を巻き込んだ取り組みもご紹介いただきました。

角氏は、歴史的建造物の価値を適切に評価し、長期的な維持管理計画を策定することが、単なる「保存」ではなく新たな価値を「創る」ことにつながると結びました。

このたびのご講演は、過去の解体事例と現在の保存活動の対比を知る機会となったとともに、私たち建築士が「遺す」ことの重みを再認識する機会となりました。また、歴史的資産を次の世代へ繋ぐことは、現代の建築士たちに課せられた責務でもあったと感じました。



講師の角幸博 (かど ゆきひろ) 氏

## 災害対応委員会

### 全道大会ミニ机上訓練

災害対応委員会 委員長

土田 浩貴 (上富良野支部)



今年度も全道大会会場内において災害対応委員会事業のミニ机上訓練を行わせて頂きました。昨年同様分科会ではなく全員参加の意見交換会を行ったのでこちらの参加率が高くミニ机上訓練に参加される会員さんたちは例年より少なかった印象です。

ミニ机上訓練の他にネットワーク登録と災害派遣の意思確認等のアンケートも実施致しました。アンケートにご協力いただいた皆様ありがとうございました。又、数年前に委員会で製作しました防災に役立つ本を配布させていただきました。小さいお子さんでもわかるように絵本のような防災本ですので数に限りはありませんが必要な方は連絡ください。

近年は全道大会時にミニ机上訓練に対して認知して頂いておまして、昨年の日高大会終了時に中標津支部さんの担当者さんに来年もミニ机上訓練の場所を確保しておきます！とお声をかけて頂き大変ありがたく思いました。来年以降も機会があれば参加される会員の皆様にミニ机上訓練を体験して頂きたいと思っております。

最後になりましたが、山岸支部長はじめ中標津支部の皆様、準備から会場設営、当日の運営お疲れ様でした。素晴らしい全道大会でした。

また来年全道大会（札幌大会）でお会いできたらと思います。

## 実行委員会

### 皆様に感謝！

事務局長

佐藤 主計 (中標津支部)



令和5年9月19日の道東ブロック会にて全道大会を引き受けてから、あっという間の2年でしたが、無事開催できたのも、非会員協力スタッフ、本部の皆様、道東ブロックの皆様、協賛いただいた各社のお力添えがあったことと、感謝申し上げます。

前回の平成10年、27年ぶりの全道大会に支部役員達でさえ本当に中標津支部でできるのか、不安に駆られながら模索して参りました。27年前は支部会員も120名以上いた上に、活気のある青年部も45名ほどいましたが、現在は支部会員48名、そのほとんどが50代以上、40歳以下は2名という有様。現実味が、わからないまま、令和6年2月6日に実行委員会を立ち上げました。まずは大会内容と大会テーマの模索ですが、この根幹となる部分で躓いてしまいます。大会テーマ・サブテーマは9月の理事会でも承認されず、メインテーマは『日いつる大地からのメッセージ』と決定されましたが、サブテーマは無しとなってしまいました。「すごろく」による意見交換会方式は、早々に決まったのですが、実行委員会内でも、解釈が違い方向性の定まらない中、実際にやってみて、形になったのが5月。最終形になったのは日高大会の前。我々でさえ口頭説明では理解に苦しむ、この方式は本部理事会の理解も得られるはずもなく、では動画をyoutubeにあげてみようとなりま

したが、うまく伝わっていない様子。11月のブロック会で本間会長をはじめ、ブロックの支部長、事務局長に実際に体験してもらい、やっとスタイルが確定しました。宿泊先が確保できるかの問題にも悩みました。ちょうど、中標津町内ではここ数年間建設ラッシュで宿泊先が不足している問題があり、皆様には早くに宿の確保をお願いしなければならず、ご迷惑をおかけいたしました。懇親会においても、町内唯一の会場が繁華街から離れている点にも苦慮しました。バスの運転時間改善告示により1台しか動かせないとのことで、急遽マイクロバスをレンタルし並行運転することに決定しました。

様々な問題が山積する中、この状況を打破できたのは、冒頭にも記述しました、延べ24人の非会員スタッフの協力が、とてもありがたい存在でした。本部の皆様には計画段階から、当日や後日処理までお世話になりました。前日から設営をお手伝いいただいた斜里支部の皆様、ご支援いただきました道東ブロックの各支部様、皆さん前日から手伝いに行くよと、お声がけいただき、ありがたい限りです。本当にありがとうございました。講演依頼が遅かったにもかかわらず、快諾していただいた角先生、懇親会余興を盛り上げていただいたエナさんをはじめ、無事開催できましたことは皆様のおかげと心より感謝いたします。そして、全国大会の翌週にもかかわらず、道東中標津町まで、お越しいただいた大勢の皆様、大いに盛り上げていただき、ありがとうございました。最後に2年間めげずに、踏ん張っていただいた21名の実行委員の仲間に感謝！



情報委員会 前田 繁 (釧路支部)

令和3年4月号にて釧路市阿寒湖畔を題材に寄稿、今回は釧路駅を視点にしたつぶやきになります。道内主要都市にあるJR駅が改築されているなか、釧路駅は現在も歴史観を漂わせながら現役として運用されています。釧路駅は、明治38年(1905年)に開業、道東の交通拠点として誕生したこの駅は、以来120年近くにわたり、釧路のまちとともに歩んできました。開業当初は、石炭輸送が主な目的で、近くの釧路港や炭鉱地帯と結ばれた鉄道は、まちの発展に欠かせなく、鉄道によって人や物資の流れが生まれ、釧路は一気に産業都市としての基盤を築いていきました。昭和に入ると、釧路駅は物流の要から、人の移動の中心へと役割を広げ、特に昭和40年代には観光客も増え、道東観光の出发点としてにぎわっていたとのこと。当時は、駅前のバスターミナルから阿寒湖や摩周湖方面へ向かう観光バスが次々と出発し、駅はいつも活気にあふれ1970年代には特急「おおぞら」などの運行も始まり、札幌や帯広とのアクセスがより便利になっております。



昭和41年の釧路駅～北大通空撮



現在の釧路駅

駅周辺の再開発構想も、議論立ち上がっては霧散することが度々あったらしく、平成の終わりごろから本格的に釧路市としての計画が立ち上がり、現在は釧路都心部まちづくり計画としてHPにUPされている状況までです。

内容的に釧路駅を挟み、南側の北大通と北側の共栄新橋大通のアクセス強化、活性化のため高架化で解消する計画により、計画確定から運用開始まで今から早くても10年以上の年月は必要になることが容易に想定されます。一市民として高架駅でなくてもいいのではと感じており、釧路駅の老朽化を踏まえると10年程度を目処に新駅運用が出来ることを優先にした計画に方向性を変えることを望んでおります。釧路駅の改築はここまでとして、現在の駅周辺について思うことについてなのですが、駅南口、北口が共に寂れており、市民として、観光客を迎える窓口としてとても残念な状況でございます。



釧路駅北口(北大通)東側周辺



釧路駅北口(北大通)西側周辺

今からでも釧路の玄関口として出来ることはなにか?と思わざる得ない状況でございます。最近新しくなった他駅周辺をみると、広い歩行空間とその周辺にお店などの配置、目を引くモニュメント等、人が集まり、留まれる環境整備が整っております。釧路駅前についてもそこそこのスペースがあります。現在は利用が少ないタクシーの待機スペースと、送迎用車寄せスペースしかなく、ただただ古びた釧路駅のイメージが残り、イベントでの活用性もなく、通路の役割しかありません。新駅着手まで要する長い期間、駅前及び周辺を歴史感漂う現釧路駅を引き立てられるようなデザイン力で整備がすすむことを切に望んでいるところでございます。

十勝支部

「住宅の省エネ基準適合に係る計算実務を学ぶ勉強会」の開催

スキルアップ事業委員長  
竹川 信一



十勝支部スキルアップ事業委員長の竹川と申します。昨年よりテーマを絞り数回に渡る勉強会を開催しております。昨年は4号特例の縮小により木造に特化した構造計算の実務について構造設計者を講師に勉強会を開催しました。

今年度は令和7年4月1日より改正となった建築確認における省エネ基準適合義務制度内容の理解を深めるため設計事務所、工務店等施工関連業者、行政機関など関連業種の従事者に参加頂き合計3回の日程にて例題図面から計算の過程に沿って勉強会を開催しました。講師は当会会員であり省エネ計算実務20年以上の経験豊富なコーディネーターでもある荻野専務理事に快諾を得て毎回膨大な資料を作成頂き、丁寧な解説を行って頂きました。今回の勉強会の特徴として募集段階で参加者の人数を最大で20名までに絞り、参加者

から講習中においても直に質疑応答を行える事、一人でも遅れを取ることがない様、要所にバッファを確保しながら進めていくことで注力を注げるよう配慮しながら進行を図れる事を目標に掲げ開催しました。又、参加者にはパソコンを持参頂き講師の解説と説明の流れに沿って全員が同じスピード感で一体となり、時には少し戻り参加者が同じレベル感で進むよう創意工夫を行った事です。一般的に多くの講習会では半日～1日程度かけ、制度・内容の概略説明程度が多いが、当会では内容及び計算の把握・パソコンによる入力計算まで行う事を決め最低でも3回、概要説明・仕様表作成ツールの活用法、外皮性能基準の計算・一次エネルギー消費量基準の計算まで行っております。基本的な内容を理解した後に作成ツールを使用し誤りなどはその場で解決できる様、講師から解釈・解決策の対応を迅速に頂き毎回最後には理解が難しかった点の質疑など参加者からメール連絡を頂くよう

配慮しました。最後には参加者から講習内容のアンケート募集を行い、その結果率直な課題点も明確になったことから今後の勉強会を開催するにあたり前向きに繋げられることも感じられ開催側・参加者側双方の思いと距離感が近づいた勉強会であったと強く感じております。直近では4号特例縮小による確認申請の遅れがまだ改善せず申請者側・審査側共非常に苦慮されている現実があります。このような課題解決に向け今後も明確で理解しやすい内容の勉強会を参加者と共に開催出来ればと切に思っております。



第3回 勉強会の様子

令和8年1月号(来月号)から  
会誌「北海道建築士」の発行方法を変更します!

令和8年1月号(来月号)より、会誌「北海道建築士」の発行方法がこれまでの紙印刷での発行から、会員専用ホームページへの掲載・発行へ変更となります。

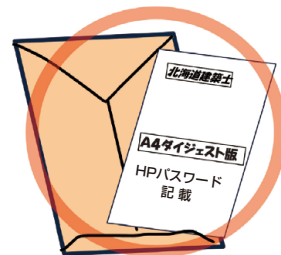
今後は、会誌「建築士」を送付する際に、会誌「北海道建築士」のダイジェスト版を発行・送付し、会員専用ホームページのパスワードはダイジェスト版に掲載させていただきます。

なお、会誌「建築士」の送付については来月号以降も変更はございません。

なお、会員専用ページは、ホームページ内の[こちら](#)をクリックし、ご確認ください。



毎月郵送されていた「北海道建築士」の冊子が廃止!



毎月郵送で「北海道建築士」A4 1枚のダイジェスト版へ

## 道士会の動き

### 本部の主な会議報告 (11月)

- ◆第10回青年委員会  
〈開催日〉8日(土)  
1) 令和7年事業報告・決算(概算)報告、令和8年事業計画・予算  
2) 令和8年建設産業ふれあい展  
3) 令和8年全道青年委員会連絡会議  
4) 令和8年青年建築士の集い  
5) 令和8年全道大会青年サミット・分科会
- ◆第2回災害対応委員会(Web併用)  
〈開催日〉15日(土)  
1) 令和7年度事業報告  
2) 令和7年度決算報告  
3) 令和8年度事業計画・予算(案)  
4) 防災士セミナー  
5) SURVEI
- ◆第4回総務企画委員会  
〈開催日〉21日(金)  
1) 令和7年第4回理事会議案
- ◆第3回事業委員会  
〈開催日〉22日(土)  
1) 令和7年事業報告(10月末)及び収支決算見込み  
2) 令和8年収支予算(案)  
3) 令和8年事業計画(案)について(令和7年各講習会と継続事業等確認)  
4) 令和8年新規講習会開催について(新規事業に向けての議論)
- ◆第4回役員会  
〈開催日〉28日(金)  
1) 令和7年第4回理事会議案
- ◆第3回女性委員会  
〈開催日〉29日(土)  
1) R8年取り組みたい事業  
2) R8年集い  
3) インスタ活用(再検証)  
4) 連合会事業

### 本部の主な行事予定 (12月)

5日(金) 第4回理事会 6日(土) 第3回情報委員会

## 講習会・セミナーのご案内 (12月)

### 監理技術者講習

10日(水) 札幌市

### BIMセミナー

12日(金) 札幌市

### “会員専用ページ”でオンデマンド配信中!



- 視聴方法: 北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
- 12月パスワード: Spp062

## CPD認定プログラム(11月認定)

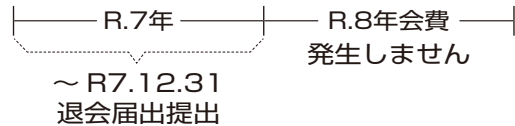
- ◆防災セミナー2025  
〈日程及び会場〉12月19日(金) 15:00~16:30  
かでの2.7(札幌市)  
〈単位数〉2単位
- ◆do BIM Season9 The final seminar  
〈日程及び会場〉12月12日(金) 13:30~16:50  
かでの2.7(札幌市)  
〈単位数〉3単位  
〈上記問合せ先〉北海道建築士会 TEL 011-251-6076
- ◆デザインから納まりを考える  
〈日程及び会場〉12月20日(土) 17:00~18:30  
市民活動プラザ星園(札幌市)  
〈単位数〉2単位  
〈問合せ先〉北海道建築士会札幌支部 TEL 011-232-1843

## 特記講座割引のお知らせ

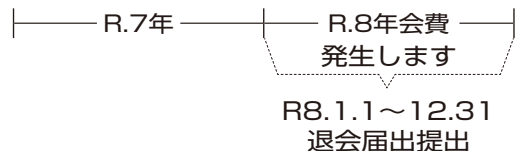
株式会社建築資料研究社様と特別学費適用に関する提携を行い、当会会員(正会員、準会員、賛助会員である個人、賛助会員である法人の職員)であれば、特記講座に入学する場合は特別学費にて入学できます。割引となる講座の一覧及び連絡先は当会HPに記載しておりますので、資格取得を目指している方はご利用ください。

## 令和8年会費関係スケジュール

【令和7年12月31日迄に退会届提出の場合】



【令和8年1月1日以降に退会届提出の場合】



令和8年会費請求書を11月中旬に郵送いたしました。本会の会費は、年会費(1月~12月)の一括納付(会費規則第2条1項)令和8年3月31日迄となっております。年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。都合によりやむを得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

## 編集後記

2025年も毎年同様に「あっ!」という間に終わりを迎えます。今年を振り返ると、我が中標津支部で27年ぶりに全道大会を開催いたしました。27年前とは打って変わって、会員数・スタッフ数ともに激減。さて、どうする?と一昨年から2年間という短い間、少数精鋭で準備してきました。「日いつる大地からのメッセージ」みなさまに届いたでしょうか?飛行機欠航など当日はバタバタしましたが、無事開催出来たこと、大変うれしく思います。ご参加のみなさま大変ありがとうございました。来年の札幌大会楽しみにしております。あっ!ホタテ美味しかったでしょ?(笑)。みなさま良いお年を!!と締めくくるとともに、この号で書面発行としてはラストとなります(泣)。新年からは北海道建築士会HP「Web会員専用ページ」でお会いしましょう!続きはWebで!!

情報委員会 副委員長 村山 賢司(中標津支部)

情報委員会委員長/前田 繁  
副委員長/村山 賢司・立花智亜喜  
委員/角張 隆昌・津山 浩  
奈良岡 修

## 北海道建築士 No.340号

印刷 令和7年11月/発行 令和7年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011)251-6076番  
URL https://www.h-ab.com/

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011)811-7151番